



備品貸し出しアプリ

たった1画面で作成できるアプリ

校務で使えるアプリを
ローコードで作ってみませんか？

貸し出し状況が
一目で分かる

貸出日時	貸出期間	貸出状況	返却ボタン
2022/08/12_05:00から1時間	Maikuro Tarou	01 02	返却
2022/08/25_12:00から2時間	Power Aiko	02 03	返却

上の表と被ってないか確認してから借りてください。

surface ▼ 1 2 3 ▼

貸出期間
2022年8月27日 📅

00 ▼ : 00 ▼ から 1時間 ▼

借りる

備品管理から
逃げ出したい
あなたに送る

借りたい備品を
タップして選択

- ・ **PowerApps** は短時間でローコードのアプリを作成できるツールです
- ・ 校内の備品をまとめて管理し、貸し出し状況がすぐに分かるアプリを作成します



MIEE PowerApps 普及チーム2022

*本手順書の記載内容は作成時点（2023年2月）の内容となります



貸し出しアプリ 手順書 目次

アプリの準備

P3~8

- 準備1 Office365にサインインする
- 準備2 アプリに接続するデータを作成する [手順1]~[手順6]
- 準備3 PowerAppsを開く
- 準備4 新しいアプリを作成する

①オブジェクトを配置

P10~14

- ①-1 関数表を用意する
- ①-2 ラベルを追加する
- ①-3 ドロップダウンを追加する
- ①-4 コンボボックスを追加する
- ①-5 日付の選択用ボックスを追加する
- ①-6 予約時間用ドロップダウンを追加する
- ①-7 借りるボタンを追加する
- ①-8 貸し出し備品ギャラリー（枠）を作成する

②データを接続・関数を設定

P15~22

- ②-1 スクリーン1に関数を入力する
- ②-2 備品リスト（データ）を接続する
- ②-3 種類選択と備品選択のパーツに関数を入力する
- ②-4 予約時や期間のパーツに関数を入力する
- ②-5 借りるボタンに関数を入力する
- ②-6 SharePointのデータを接続する
- ②-7 ギャラリーに関数を入力する
- ②-8 アプリの保存&再度読み込み

③ギャラリー内に配置

P23~26

- ③-1 ギャラリー内にラベルを追加する
- ③-2 ギャラリー内ラベルに関数を入力する
- ③-3 ギャラリー内に枠を追加する
- ③-4 ギャラリー内に返却ボタンを追加する
- ③-5 返却ボタンに関数を入力する
- ③-6 アプリの保存と公開

PowerApps 補足説明

- ◇PowerApps操作画面について P9
- ◇公開・保存・動作の確認・チェック・共有 P27
- ◇PowerAppsアプリをチーム名で共有する方法 P28
- ◇PowerAppsアプリをTeams上で利用する方法 P29
- ◇よくあるエラーについて P30
- ◇「借りるボタン」「返却ボタン」の関数説明 P31

貸し出しアプリ 準備

準備 1. Office365にサインインする

・ <https://www.office.com/> よりMSアカウントでサインイン



・ アプリを作成する前に、アプリで利用する関数表を用意する

* 1画面貸し出しアプリ関数表pdfファイルは、本手順書と共に「[マイクロソフトGIGA スクールパッケージ 校務のデジタル化](#)」サイトよりダウンロード可

準備 2. アプリに接続するデータを作成する

手順 1

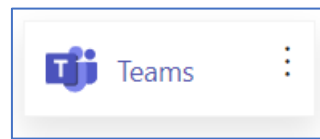
Teamsアプリを起動する



・ Office365ホーム画面
左側のアイコンのTeamsを選択

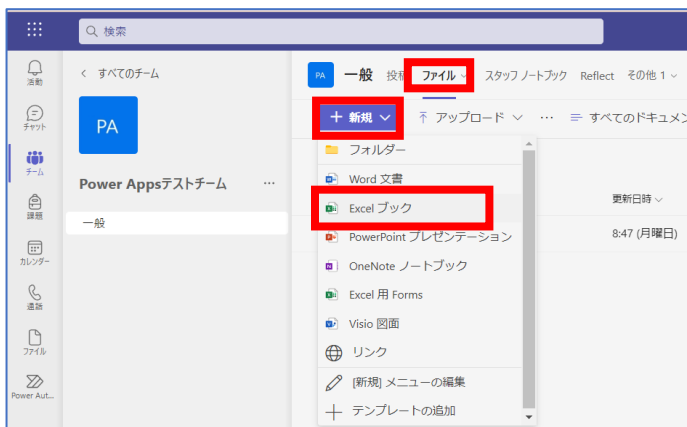


・ なければ左上のワッフルボタン
「アプリ起動ツール」よりTeamsを開く



手順 2

貸し出し状況等を共有したいTeamsチームにExcelを保存する

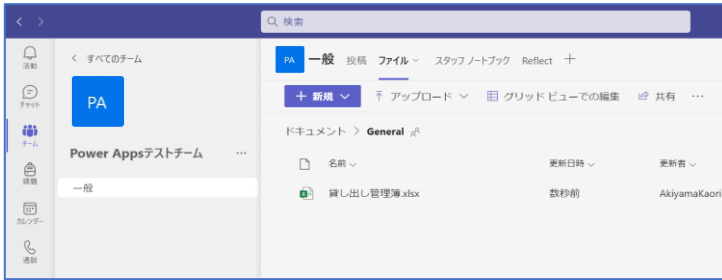


・ 貸し出しアプリを利用するチームの「ファイル」の中に「+新規」よりExcelブックを選択してExcelを作成する。ファイル名は任意でOK
ここでは仮に「貸し出し管理簿」とする

貸し出しアプリ 準備

手順3

貸し出し状況等を共有したいTeamsチームにExcelを保存する



- ・手順2で作成したExcelをクリックしExcelを立ち上げる
※互換性を重視してデスクトップアプリケーションではなくブラウザを推奨

手順4

Excelで借用者リストと備品リストを用意する

Sheet1 「備品リスト」シート

備品番号	備品の種類	備品ID
仮番号	仮種類	仮ID
1 surface		1surface
2 surface		2surface
3 surface		3surface
1 chromebook		1chromebook
2 chromebook		2chromebook
3 chromebook		3chromebook
1 iPad		1iPad
2 iPad		2iPad
3 iPad		3iPad

←各校で導入されている備品を入力

※備品ID列は被りが無いようにする
手順書では「備品番号」+「備品の種類」としている

- ・本手順書と共にサイトにアップされている「1画面貸し出しアプリ関数表」pdf2ページ目の「備品リスト」と「借用者リスト」を参考にExcelで表を作成する

- ・Sheet1に、「備品番号」「備品の種類」「備品ID」それぞれの項目は各学校の実情に合わせて入力する。
※3列目以降は自由にカスタマイズ可能

Sheet2 「借用者リスト」シート

タイトル	備品番号	備品の種類	借用日	貸出期間	貸し出し状態
仮タイトル	仮番号	仮種類	仮日	仮期間	借用中

- ・Sheet2に、「タイトル」「備品番号」「備品の種類」「借用日」「貸出期間」「貸し出し状態」を入力する
それぞれの項目は必ず「仮入力」と入力する

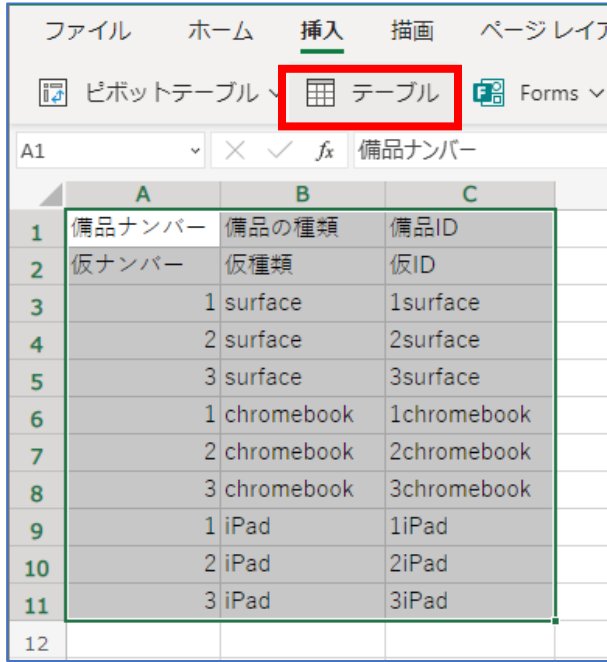
※「仮入力」と入力することでlist作成時のエラーが減る

貸し出しアプリ 準備

手順5

Excelの表をテーブルにする

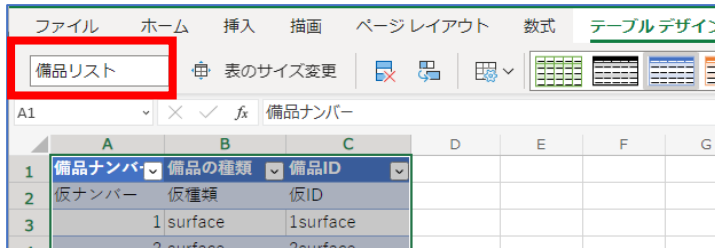
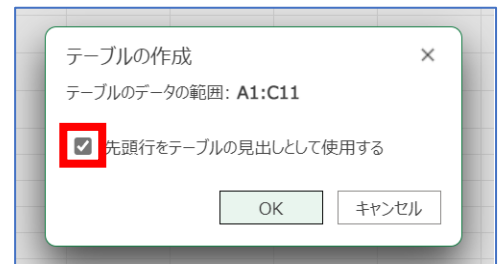
Sheet1 「備品リスト」シート



	A	B	C
1	備品ナンバー	備品の種類	備品ID
2	仮ナンバー	仮種類	仮ID
3		1 surface	1surface
4		2 surface	2surface
5		3 surface	3surface
6		1 chromebook	1chromebook
7		2 chromebook	2chromebook
8		3 chromebook	3chromebook
9		1 iPad	1iPad
10		2 iPad	2iPad
11		3 iPad	3iPad
12			

- ・入力した項目を範囲指定し「挿入」→「テーブル」よりテーブルに設定する

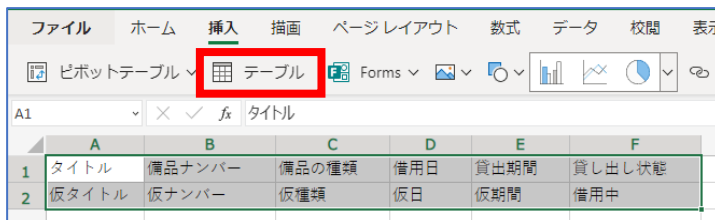
- * 「テーブルの作成」画面で「先頭行をテーブルの見出しとして使用する」にチェック→「OK」



	A	B	C	D	E	F	G
1	備品ナンバー	備品の種類	備品ID				
2	仮ナンバー	仮種類	仮ID				
3		1 surface	1surface				
4		2 surface	2surface				

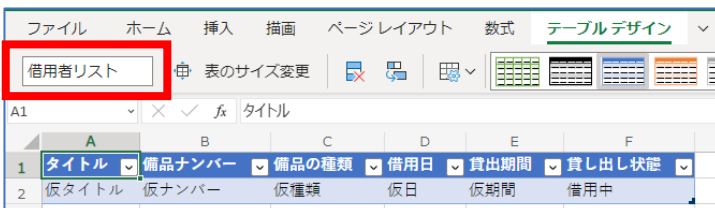
- ・テーブルデザインタブよりテーブル名を「備品リスト」に名前を変更する

Sheet2 「借用者リスト」シート



	A	B	C	D	E	F
1	タイトル	備品ナンバー	備品の種類	借用日	貸出期間	貸し出し状態
2	仮タイトル	仮ナンバー	仮種類	仮日	仮期間	借用中

- ・「借用者リスト」シートも「備品リスト」シートと同じようにテーブルに設定する



	A	B	C	D	E	F
1	タイトル	備品ナンバー	備品の種類	借用日	貸出期間	貸し出し状態
2	仮タイトル	仮ナンバー	仮種類	仮日	仮期間	借用中

- ・テーブルデザインタブよりテーブル名を「借用者リスト」に名前を変更する
- ・テーブルを再度確認してExcelを閉じる

貸し出しアプリ 準備

手順 6

SharePointにExcelをインポートする



【SharePointを開く】

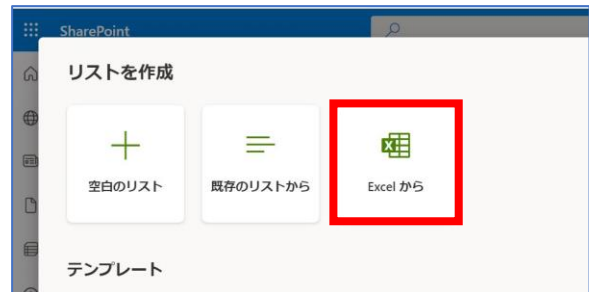
- Excelを保存したTeamsチームのファイル「…」(三点リーダー)より「SharePointで開く」を選択する



- SharePointを開いたら、左上のアイコンを選択する



- 「新規」→「リスト」→「Excelから」を選択する



- 「このサイトに既にあるファイルを選択」より手順1、2で作成したExcelを選択し「次へ」

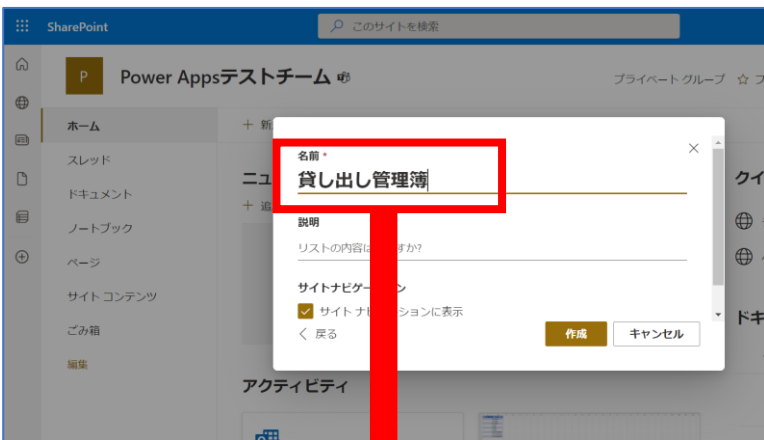
※ 「一般」チャンネルに保存した場合は、「General」フォルダに保存されている

(次ページに続く)

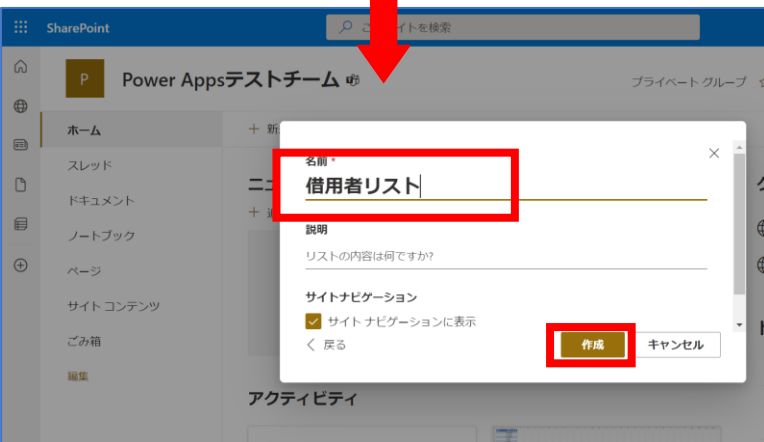
貸し出しアプリ 準備



- ・ テーブル選択箇所
「借用者リスト」を選択する
- ・ カスタマイズ画面で確認
- ・ 借用者リストの列の種類は「タイトル」以外はすべて「一行テキスト」に設定し「次へ」



- 【リストの名前を変更】
- ・ リストの名前を「借用者リスト」と入力し「作成」を選択する

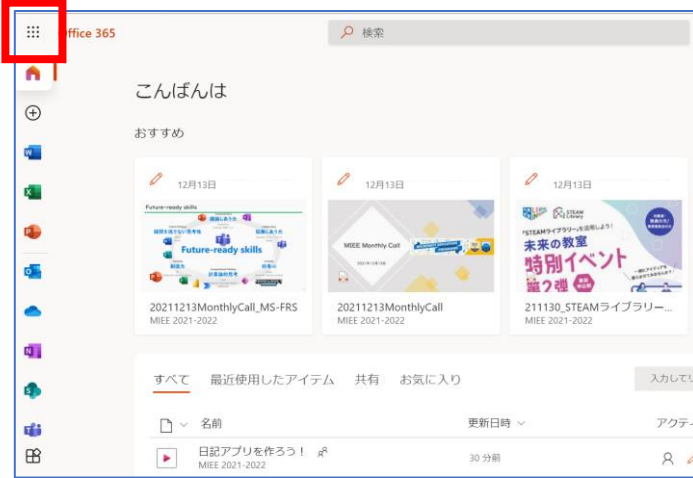


【list作成完了】

※借用者リストはデータの出し入れのレスポンスが求められるため、Excelのまま活用はできない
必ずlistにする必要あり

貸し出しアプリ 準備

準備3. Power Appsを開く



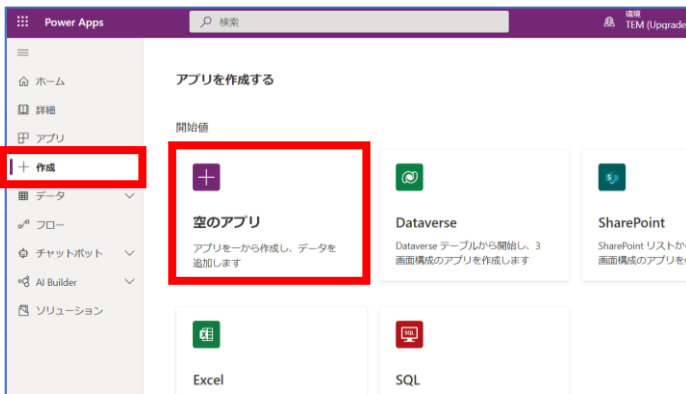
- Office365ホーム画面へ戻る
左側のアイコンにPowerAppsがあれば選択する



- なければ左上
「アプリ起動ツール」の
「すべてのアプリ」より
Power Appsを開く

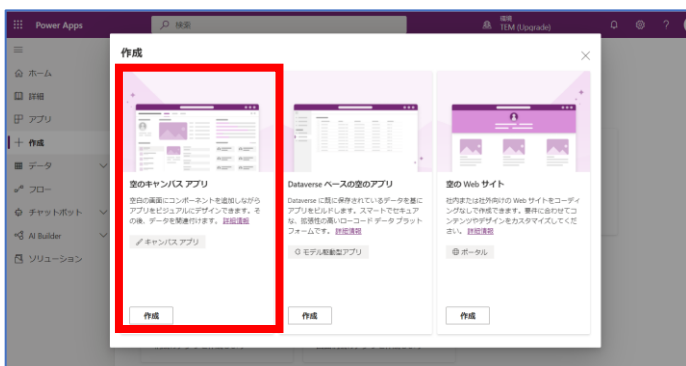


準備4. 新しいアプリを作成する



【新規アプリを作成】

- Power Appsホーム
- 「+作成」→「空のアプリ」
を選択する



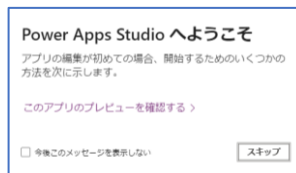
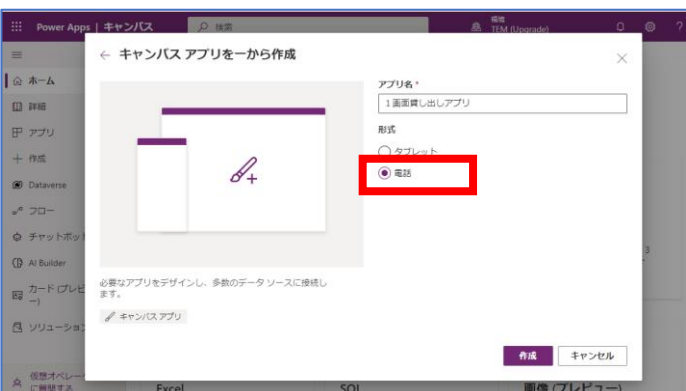
- 「空のキャンパスアプリ」の
「作成」を選択する

【アプリ名を入力】

- 作成するアプリの名前を入力
- 今回の貸し出しアプリの場合は、
「形式」を「電話」にチェック
(縦長の画面)

→ 「作成」をクリックする

*下の画面が表示されたら
「スキップ」を選択



画面操作の基本的な説明

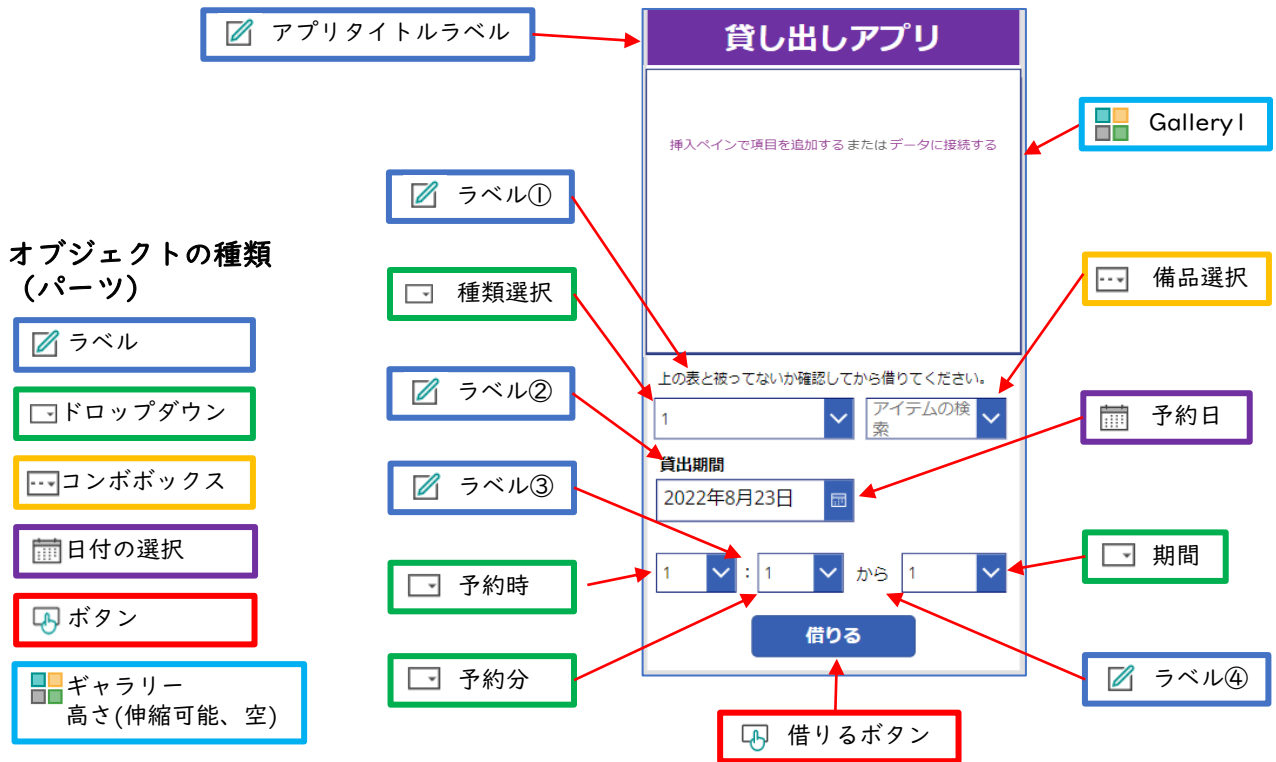
- ① **モダンコマンドバー**：動的に様々な機能をはたすコマンドバー
- ② **アプリアクション**：共有、エラーチェック、プレビュー、保存、公開ができる
- ③ **プロパティリスト**：Onselect/Text/Visible などの機能の設定
- ④ **数式バー**：関数を入力する数式バー
- ⑤ **オーサリングメニュー**：画面構成がわかるツリービュー、SharePoint などのデータに接続、図などの挿入ができる
- ⑥ **画面や部品**（ツリービュー時）：アプリを構成するオブジェクト一覧
- ⑦ **キャンバス**：アプリの部品(オブジェクト)を配置
- ⑧ **部品(オブジェクト)のプロパティ**：高さや幅、色などの設定

The screenshot shows the Microsoft Power Apps interface for creating an application. The interface is annotated with numbered callouts (1-8) corresponding to the list above:

- ①** Points to the modern command bar at the top, which includes navigation and action icons.
- ②** Points to the application action icons on the right side of the command bar, such as save and share.
- ③** Points to the property list on the right, where the 'Text' property is selected.
- ④** Points to the formula bar at the top, showing the formula for the selected text property: `fx "貸し出しアプリ"`.
- ⑤** Points to the 'ツリービュー' (Tree View) on the left, which shows the application's structure.
- ⑥** Points to the '画面' (Screens) section in the tree view, where a new screen can be added.
- ⑦** Points to the central canvas area where the application form is being built.
- ⑧** Points to the 'プロパティ' (Properties) panel on the right, which allows for configuring the selected component's appearance and behavior.

①オブジェクトを配置

操作画面のオブジェクト（パーツ）を配置する



①-1. 関数表を用意する

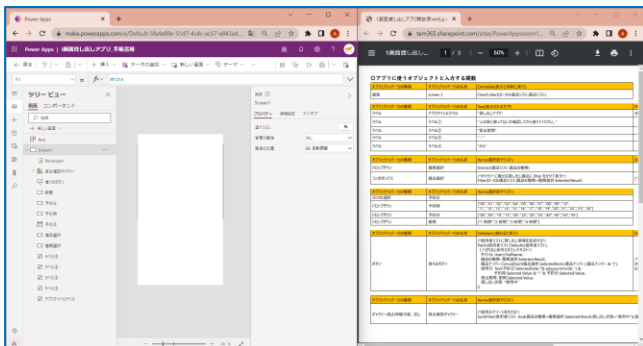


・本手順書と共にサイトにアップされている

「1画面貸し出しアプリ関数表」pdfファイルを**ブラウザ**で開く

※Macの場合はプレビュー表示

- ・関数表を確認しながらオブジェクト（パーツ）を配置する
- ・後半では関数表から関数をオブジェクトのプロパティにコピー＆ペーストする

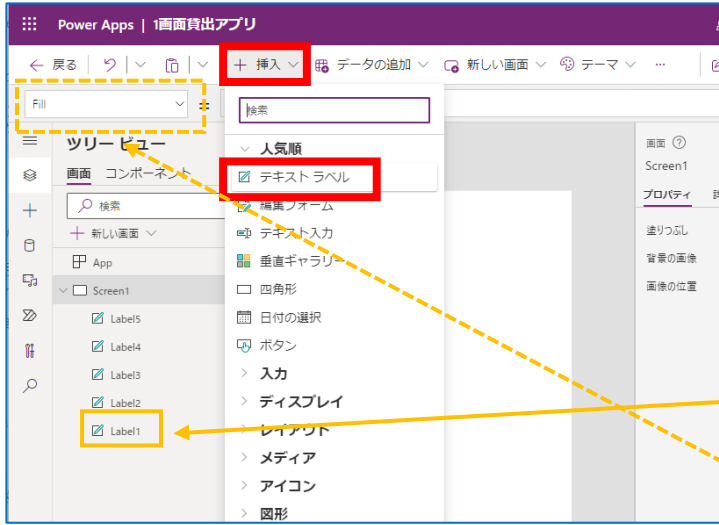


*PowerAppsとpdfを2画面にする_推奨
*pdfはブラウザ(Macはプレビュー)で開く_必須

(pdfからコピペする際、ブラウザ(Macはプレビュー表示)以外の閲覧ソフトはエラーが起りやすい。また、コピペは手引書より関数表を使った方がエラーが少ない)

①オブジェクトを配置

①-2. ラベルを追加する



- ・「+挿入」→「人気順」より「テキストラベル」を5つ追加する
- ・「1画面貸し出しアプリ関数表」pdfファイルより、先に配置した順にオブジェクトの名前やTextを入力する
 - ※オブジェクト名はツリービューの対象のオブジェクトをダブルクリックで変更可能
 - ※TextはプロパティリストをTextにしてから関数バーに入力する

オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前	Text (表示される文字)
ラベル	アプリタイトルラベル	"貸し出しアプリ"
ラベル	ラベル①	"上の表と被ってないか確認してから借りてください。"
ラベル	ラベル②	"貸出期間"
ラベル	ラベル③	": "
ラベル	ラベル④	"から"

*ラベル①はフォントサイズを「21」から「18」に変更する

*pdfからコピー&ペーストする際にオブジェクト名の末尾に空欄がある場合は削除する

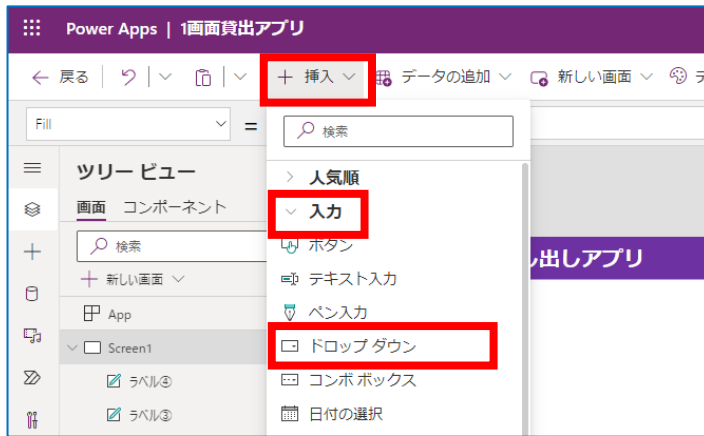


- ・ラベルを追加しTextの関数の枠に表に見えるテキストを入力したら配置を移動し整える

- 【パーツのプロパティを編集】
- ・アプリタイトルラベルは、右側「プロパティ」より文字の大きさや色を調整する

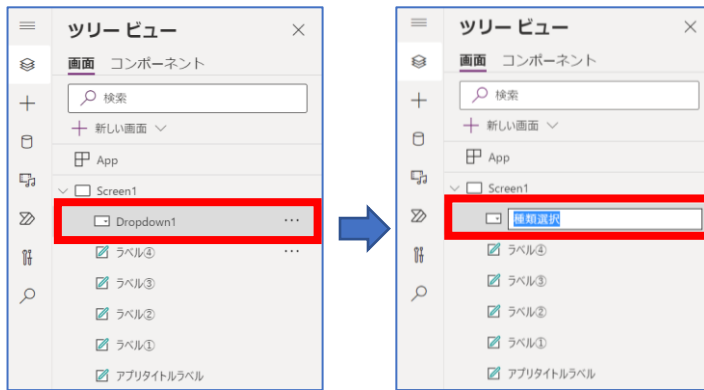
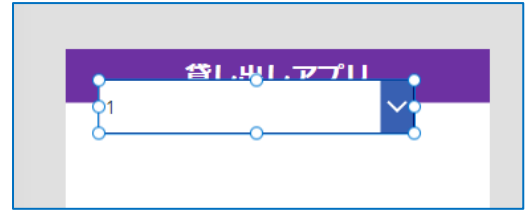
①オブジェクトを配置

①-3. ドロップダウンを追加する



【種類選択用】

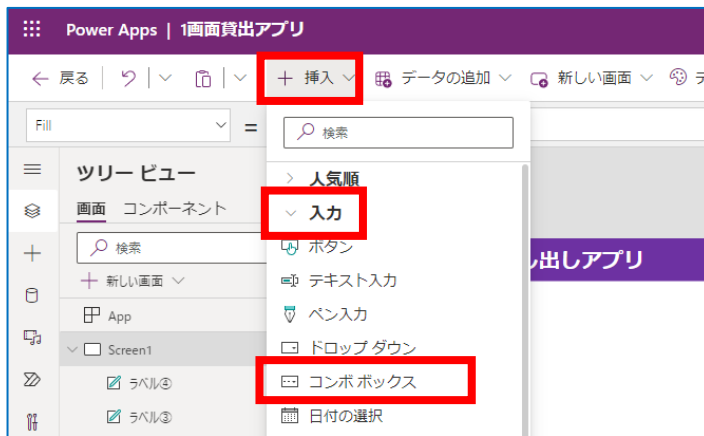
- ・「+挿入」→「入力」より「ドロップダウン」を選択する



【Dropdown1の名前を変更する】

- ・ツリービュー「Dropdown1」をダブルクリックし名前を「種類選択」に変更する

①-4. コンボボックスを追加する

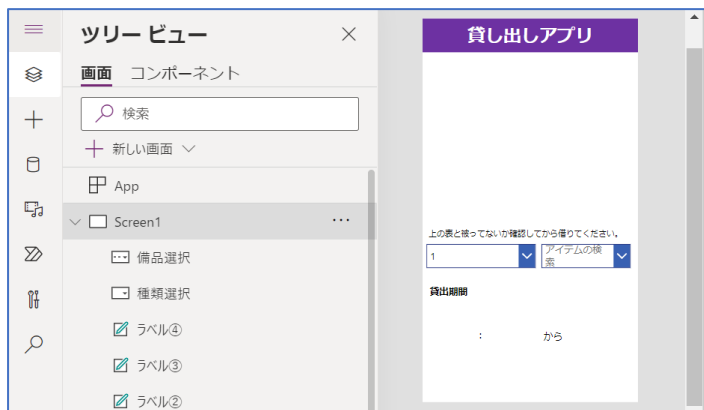


【備品選択用】

- ・「+挿入」→「入力」より「コンボボックス」を選択する

【ComboBox1の名前を変更する】

- ・ツリービュー「ComboBox1」をダブルクリックし名前を「備品選択」に変更する

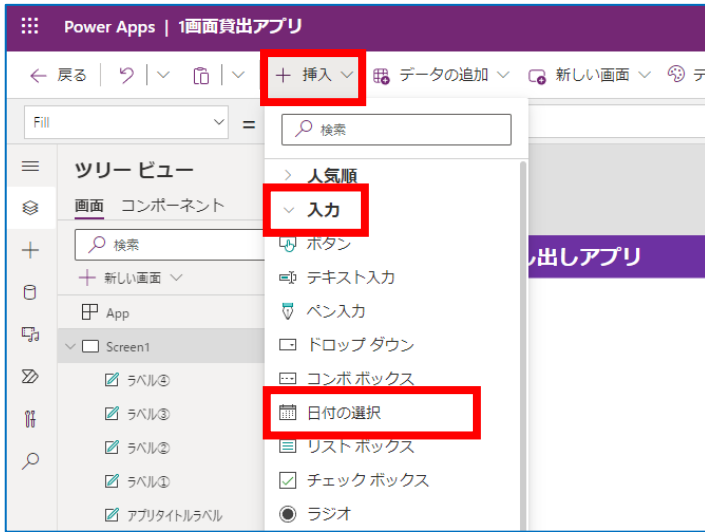


- ・ドロップダウンとコンボボックスの配置を調整する

①オブジェクトを配置

目次へ

①-5. 日付の選択用ボックスを追加する

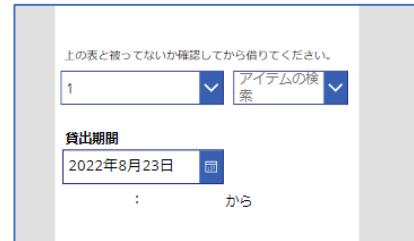


【日付選択用】

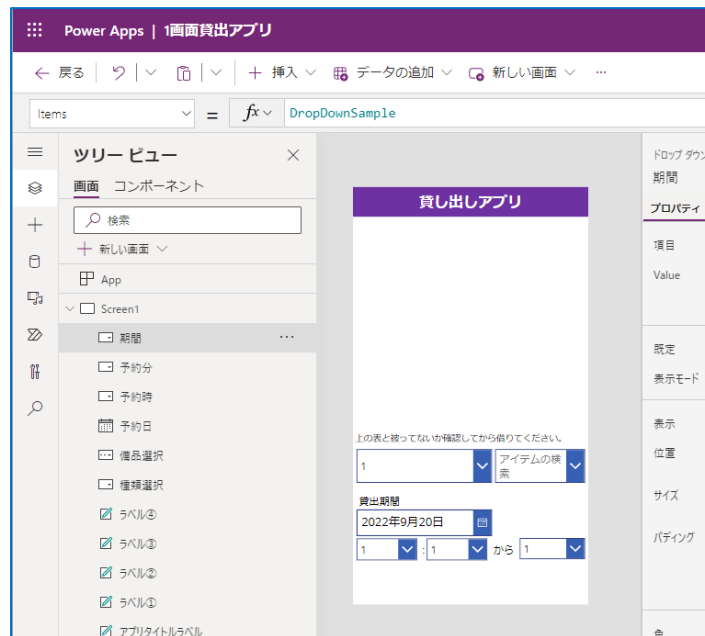
- ・ 「+挿入」 → 「入力」より「日付の選択」を選択する

【DatePicker1の名前を変更する】

- ・ ツリービュー「DatePicker1」をダブルクリックし名前を「予約日」に変更する
- ・ ボックスの配置を調整する



①-6. 予約時間用ドロップダウンを追加する

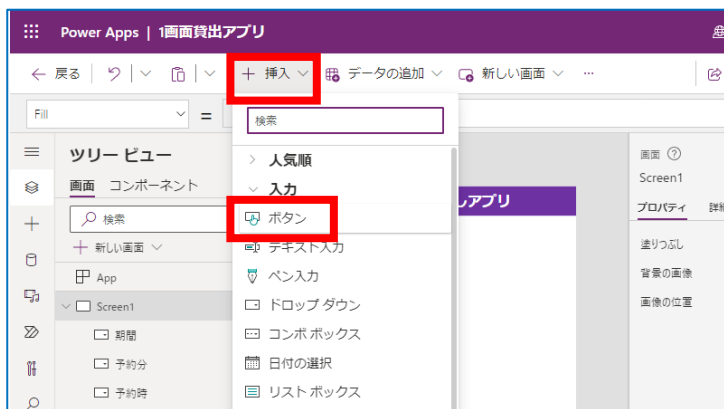


【予約時間用】

- ・ 「+挿入」 → 「入力」より「ドロップダウン」を3つ選択する
- ・ それぞれのオブジェクト名を先に配置した順に「予約時」「予約分」「期間」とする
- ・ 配置を調整する

①オブジェクトを配置

①-7. 借りるボタンを追加する

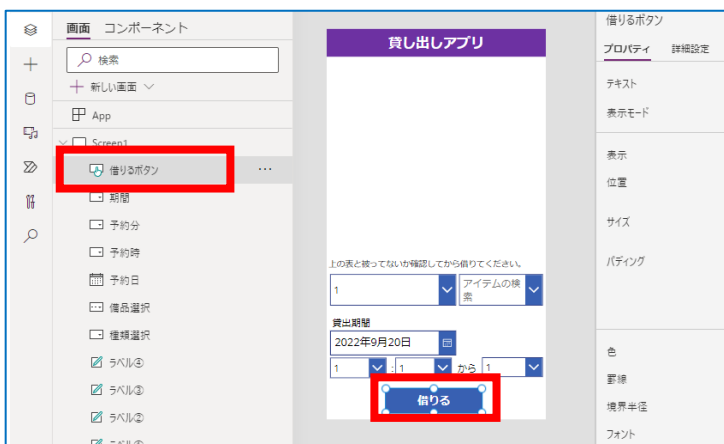


【ボタンを挿入】

- ・「+挿入」→「入力」より「ボタン」を追加する

【ボタンの名前を変更する】

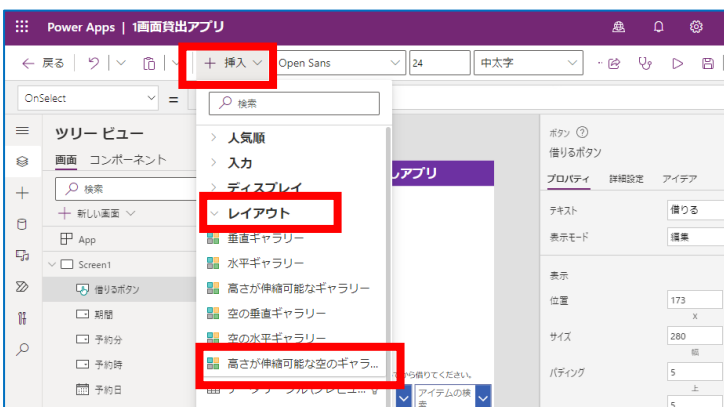
- ・ツリービュー「Button1」をダブルクリックし名前を「借りるボタン」に変更する
- ・また、ボタンもダブルクリックし名前を「借りる」に変更する



*右側「プロパティ」より

ボタンの大きさや色等を調整しても良い

①-8. 貸し出し備品ギャラリー(枠)を作成する



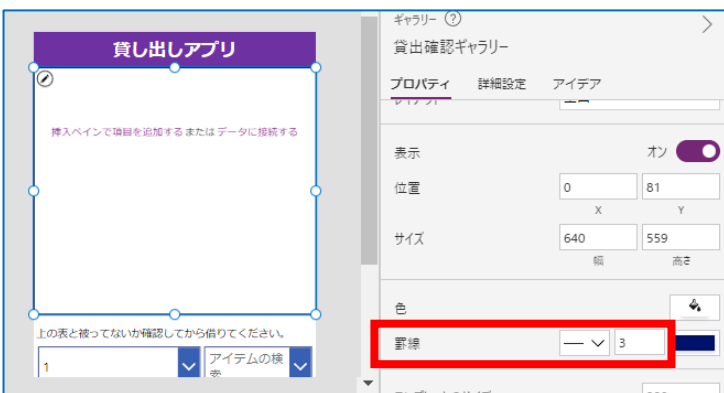
【ギャラリーを追加】

- ・「+挿入」→「レイアウト」より「高さが伸縮可能な空のギャラリー」を選択する

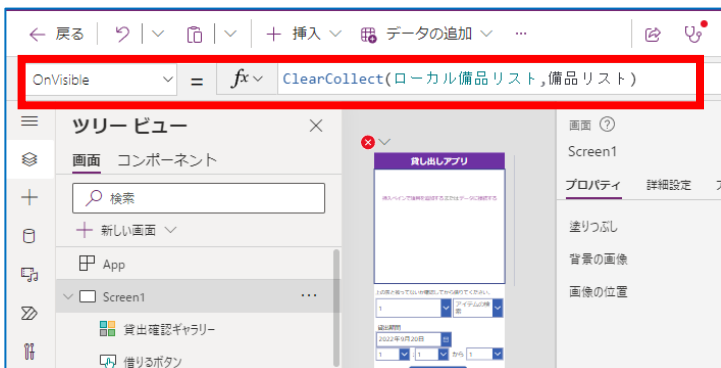
- ・ツリービュー「Gallery1」をダブルクリックし名前を「貸出確認ギャラリー」に変更する

【枠を付ける】

- ・ギャラリーを選択した状態で「プロパティ」より罫線を「3」と入力する



②-1. スクリーン1に関数を入力する



- ・ 「ツリービュー」 ボタンより「Screen1」に関数を入力する
- ・ プロパティ「OnVisible」を選択し、pdfより関数を入力する

- ・ データを接続していないため、②-1の状態ではエラーになっている



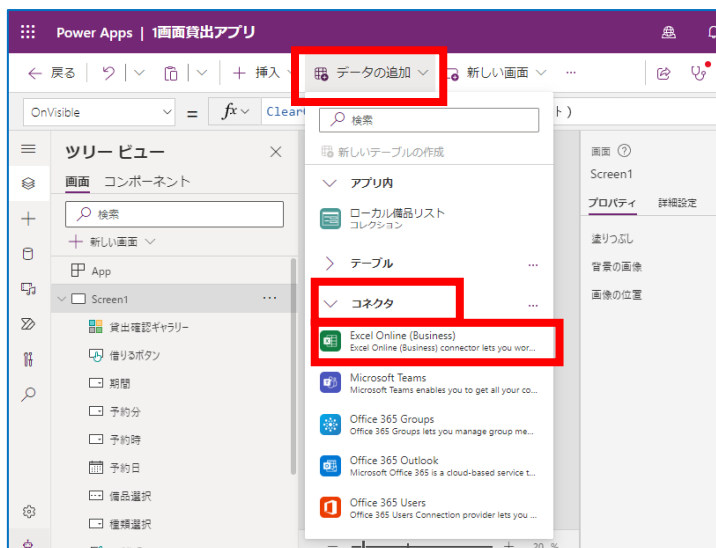
わざと説明のためにコピーするとエラーがでます

オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前	OnVisible (表示と同時に実行)
画面	Screen1	ClearCollect(ローカル備品リスト, 備品リスト)

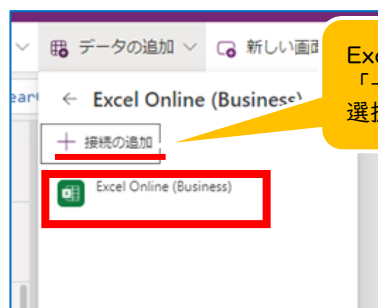
Point!

- ・ OnVisibleは、画面が表示されるとプログラムが実行します。
- ・ **ClearCollect関数**は、ローカル(端末)にデータソースの一時的なコピーを作成します。

②-2. 備品リスト (データ) を接続する



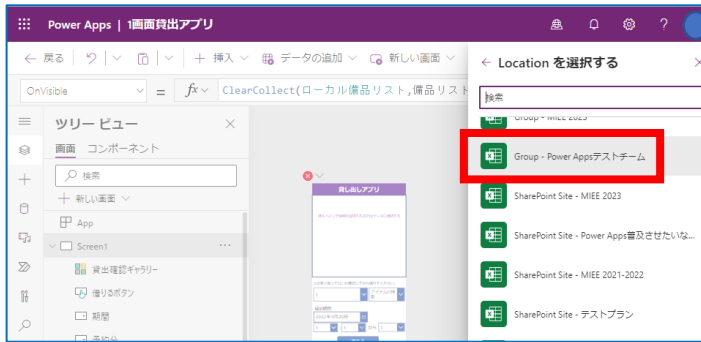
- ・ Excelのリストデータを追加する
- ・ 「データの追加」 → 「コネクタ」より「Excel Online」選択



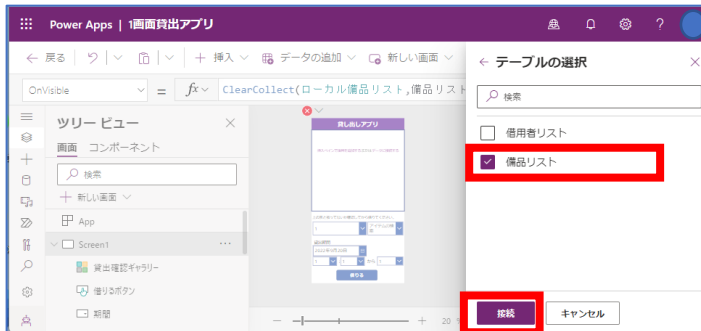
Excel Onlineが無い場合「+接続の追加」を選択して接続する

②データを接続・関数を設定

目次へ

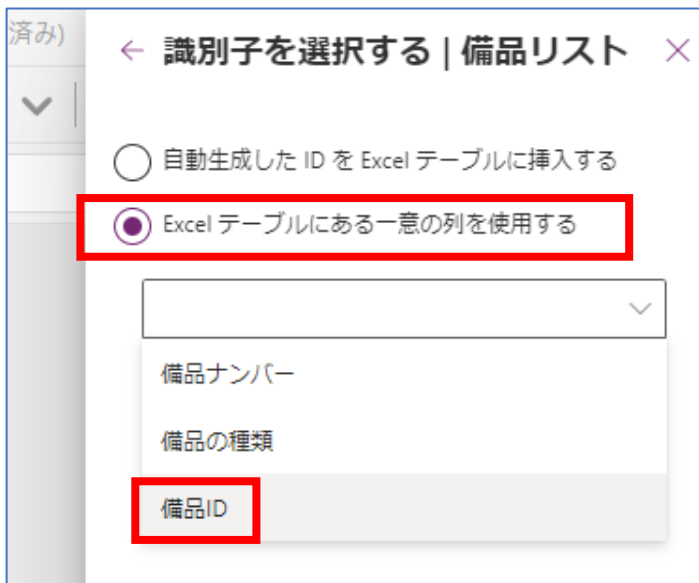


・「一覧の選択」より準備2でリストを作成したチーム名を選択する

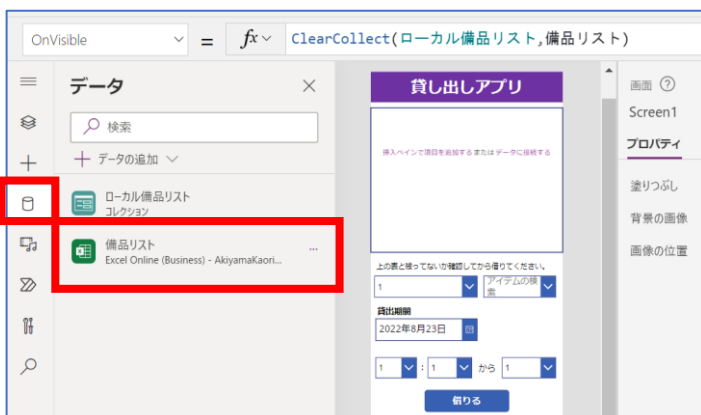


・「ドキュメント」→ Excelを保存したチャンネル→ Excelを保存したフォルダ→ 「貸し出し管理簿」 Excelを選択

・「備品リスト」にチェック → 「接続」を選択



・「Excelテーブルにある一意の列を使用する」にチェック → 「備品ID」 → 「接続」を選択

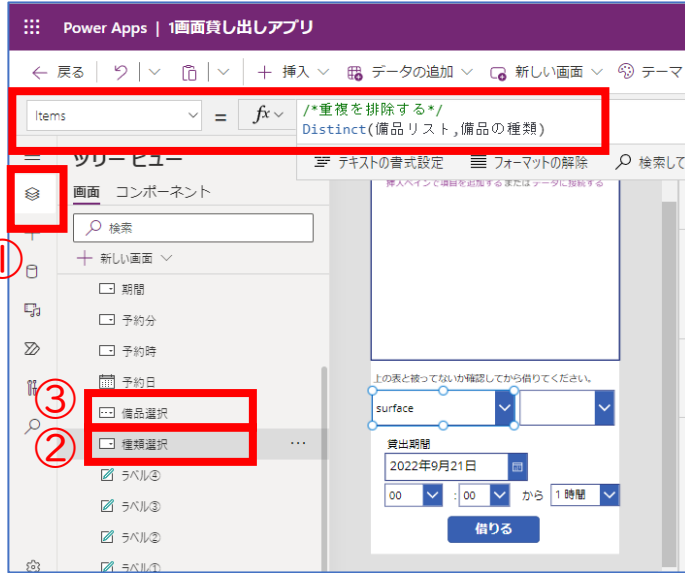


【接続を確認】

・接続できたらオーサリングメニューの「データ」に「備品リスト」が表示される

・エラーが消えたか確認する

②-3. 種類選択と備品選択のパーツに関数を入力する



- ① 「ツリービュー」を選択→
- ② 「種類選択」→
プロパティ「Items」を選択し数式バーに以下の関数を入力する
- ③ 「備品選択」→
プロパティ「Items」を選択し数式バーに以下の関数を入力する

※ 「備品選択」のコンボボックスは、先ほどの OnVisible の関数が動いてから候補が表示されるので、現段階では候補は非表示となる
そのため確認の際は、一旦保存後に確認する

オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前	Items (選択肢やリスト)
ドロップダウン	種類選択	/*重複を排除する*/ Distinct(備品リスト, 備品の種類)
コンボボックス	備品選択	/*ギャラリーに載せる貸し出し備品に filter をかけて表示*/ Filter(ローカル備品リスト, 備品の種類=種類選択.Selected.Result)

オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前	DisplayFields (選択肢に参照する列)
コンボボックス	備品選択	["備品ナンバー"]

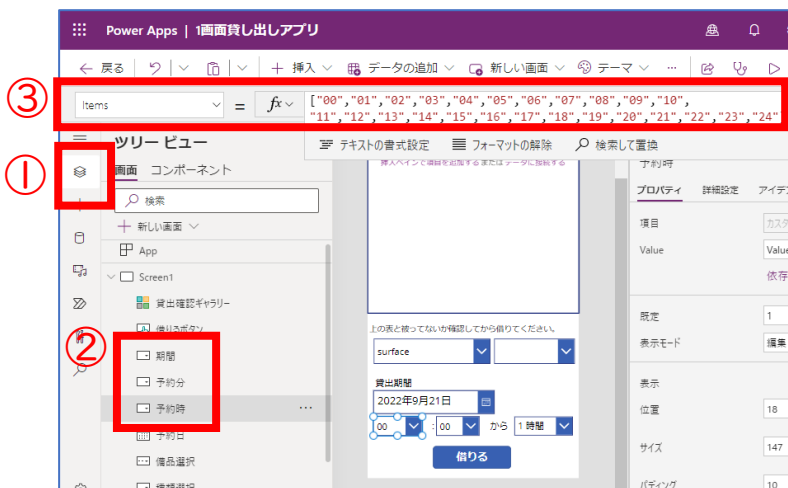
Point!

- ・ **Distinct関数**は、重複したデータを避けてドロップダウンリストにすっきりと表示させることができます。
- ・ **Filter関数**は、指定した条件に一致したデータを表示させることができます。

② データを接続・関数を設定

目次へ

②-4. 予約時や期間のパーツに関数を入力する

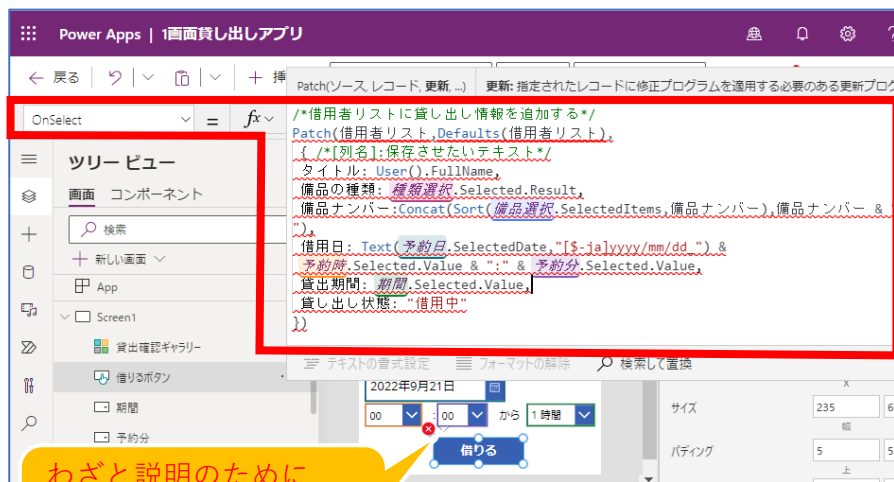


- ① 「ツリービュー」を選択→
- ② オブジェクト名を先に配置した順に「予約時」「予約分」「期間」としてそれぞれの
- ③ 「Items」数式バーに以下の関数を入力する

オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前	Items (選択肢やリスト)
ドロップダウン	予約時	["00","01","02","03","04","05","06","07","08","09","10","11","12","13","14","15","16","17","18","19","20","21","22","23","24"]
ドロップダウン	予約分	["00","05","10","15","20","25","30","35","40","45","50","55"]
ドロップダウン	期間	["1 時間","2 時間","3 時間","4 時間"]

*予約する期間は、各校の状況に合わせて1日単位など編集可能

②-5. 借りるボタンに関数を入力する



- ・借りるボタンは「OnSelect」と「DisplayMode」の2か所のプロパティに関数を入力する

※ 「OnSelect」に関数を入力するとエラーが出る

わざと説明のために
コピペするとエラーが
です

②データを接続・関数を設定

- ・「借りるボタン」の「OnSelect」と「DisplayMode」に以下の関数を入力する

オブジェクト (パーツ)の種類	オブジェクト (パーツ)の名前	OnSelect (触れると実行)
ボタン	借りるボタン	<pre> /*借用者リストに貸し出し情報を追加する*/ Patch(借用者リスト, Defaults(借用者リスト), { /*[列名]:保存させたいテキスト*/ タイトル: User().FullName, 備品の種類: 種類選択.Selected.Result, 備品番号: Concat(Sort(備品選択.SelectedItems, 備品番号),備品番号 & " "), 借用日: Text(予約日.SelectedDate, "[\$-ja]yyyy/mm/dd_")& 予約時.Selected.Value & ":" & 予約分.Selected.Value, 貸出期間: 期間.Selected.Value, 貸し出し状態: "借用中" }) </pre>

わざと説明のために
コピペするとエラーが
できます

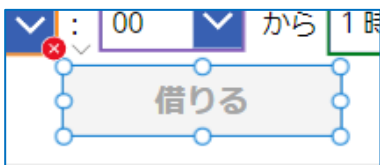
*SharePointのデータを接続していないのでエラーの状態となっている
(次のページでデータ接続)

Point!

- ・ **Patch関数**を使うことでデータソースにアイテム (データ) を書き込んだり、アイテム (データ) を書き換えたりできます。

[※詳しい使い方はP31へ](#)

オブジェクト (パーツ)の種類	オブジェクト (パーツ)の名前	DisplayMode (編集可、不可、表示切替)
ボタン	借りるボタン	<pre> /*備品を選択しないと押せないようにする*/ If(CountRows(備品選択.SelectedItems)>0, Edit,Disabled) </pre>



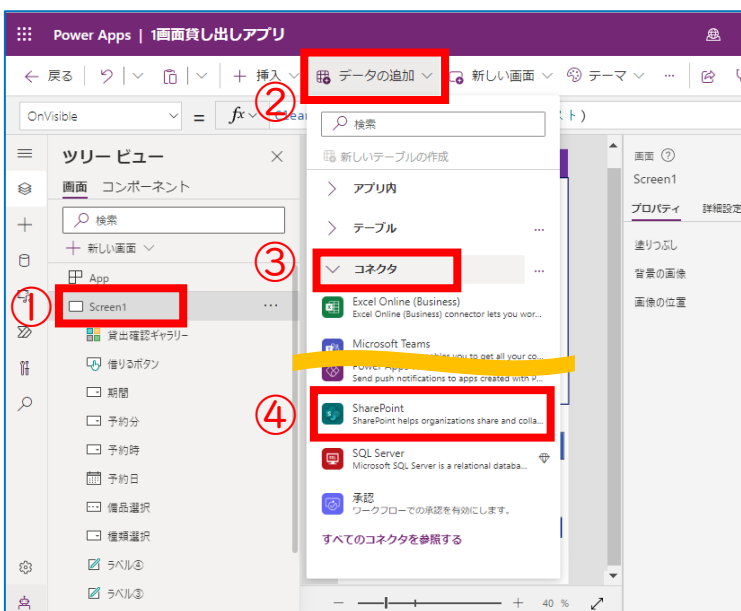
Point!

- ・ **If関数**を使い、備品を選択していない場合はボタンを押せないようにしています。

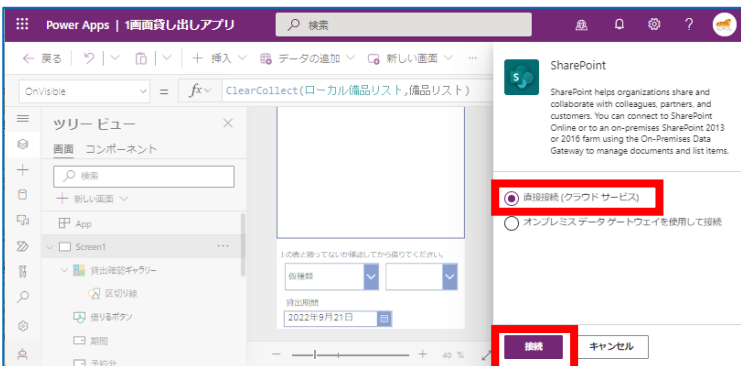
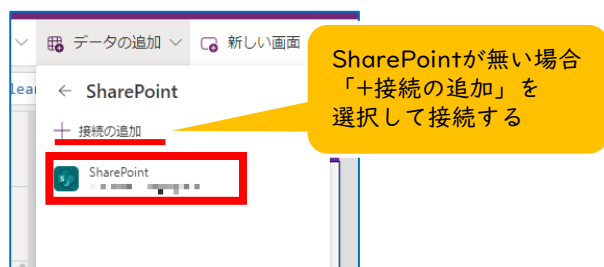
②-6. SharePointのデータを接続する

Point!

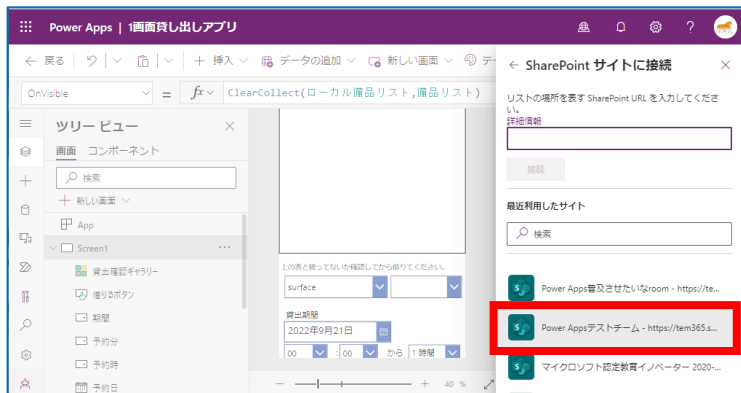
- ・ SharePointと接続することで、リストに保存してあるデータを参照したり、保存したりすることができます。



- ・ SharePointのリストデータを追加する
- ・ ① 「Screen1」 →
- ・ ② 「データの追加」 →
- ・ ③ 「コネクタ」 →
- ・ ④ 「SharePoint」よりさらに「SharePoint」を選択

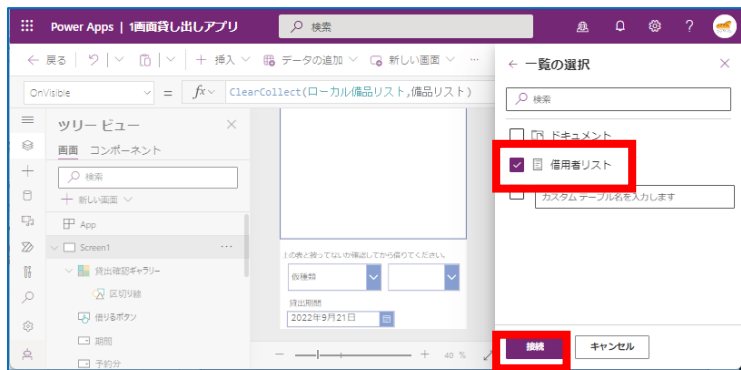


- * 「SharePoint」が表示されない場合は「+接続の追加」をクリックする
- ← この画面が表示された場合は「直接接続」を選択する

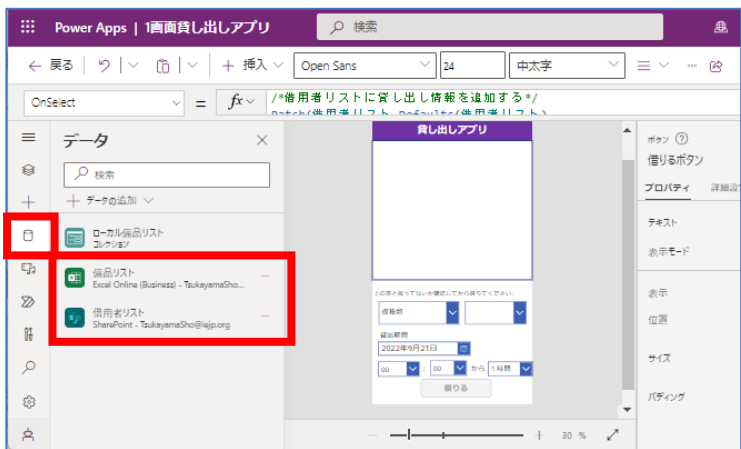


- ・ 「一覧の選択」より準備2でリストを作成したチーム名を選択する

② データを接続・関数を設定



- ・「借用者リスト」にチェック
→ 「接続」



【接続を確認】

- ・接続できたらオーサリングメニューの⇄「**データ**」に「備品リスト」「借用者リスト」が表示されている
- ・エラーが消えたか確認する

②-7. ギャラリーに関数を入力する



- ・① 「ツリービュー」より
- ・② 「貸出確認ギャラリー」の
- ・③ 「Items」に
- ・④ 関数を入力する

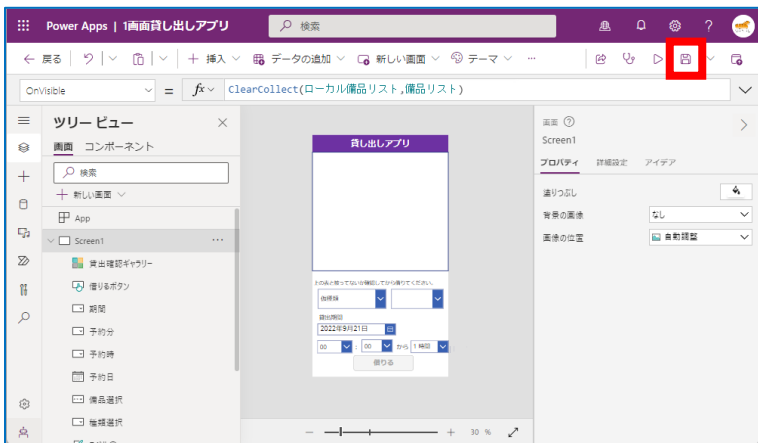
- ・①-8で作成したギャラリーのアイテムに以下の関数を入力する

オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前	Items (選択肢やリスト)
ギャラリー (高さ(伸縮可能、空))	貸出確認ギャラリー	/*借用日でソートをかける*/ Sort(Filter(借用者リスト, And(備品の種類=種類選択.Selected.Result, 貸し出し状態="借用中")),借用日)

② データを接続・関数を設定

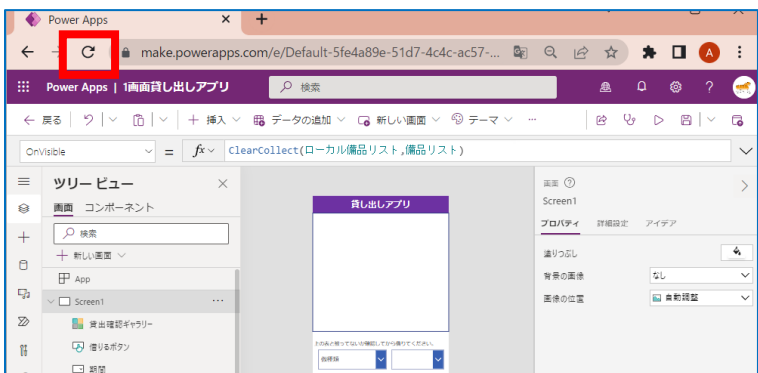
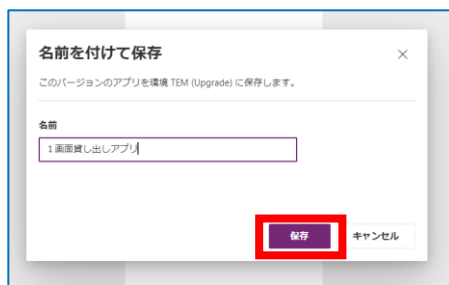
目次へ

②-8. アプリの保存&再度読み込み



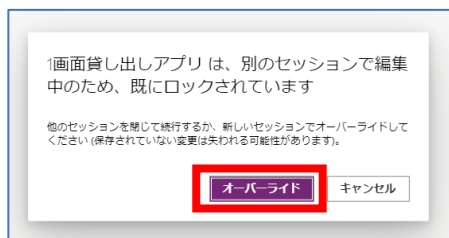
- ・ 右上部「」をクリックで保存する

※初めて保存する場合は、自動で名前を付けて保存になる



- ・ 保存し終わったら、ブラウザの再読み込みボタンをクリックしてアプリ全体を再読み込みする

※このとき、以下の画面がもし表示された場合は「オーバーライド」をクリック



Point!

- ・ 再読み込みすることで、P15 ②-1の「OnVisible」が実行されます。OnVisible関数が実行されると、Excel上の備品リストをアプリ側(ローカル備品リスト)に保存するようにしています。そうすることで、関数入力の際にエラーを起りにくくしたり、次ページの「③ギャラリー内に配置」を作成しやすくしたりします。

③ ギャラリー内に配置

貸し出し状況確認画面のギャラリーを配置する

The screenshot shows the '貸し出しアプリ' (Lending Application) interface. It features a list of items with their return dates and names, and a search section below. Callouts point to various UI elements:

- ギャラリー内ラベル① (Gallery Label 1) points to the first item's return date.
- ギャラリー内ラベル② (Gallery Label 2) points to the first item's name.
- ギャラリー内ラベル③ (Gallery Label 3) points to the first item's ID.
- 区切り線 (Separator Line) points to the horizontal line between items.
- 返却ボタン (Return Button) points to the blue '返却' button.

On the left, a legend titled 'オブジェクトの種類 (パーツ)' (Object Types (Parts)) lists:

- ラベル (Label) - represented by a blue box with a pencil icon.
- 四角形 (Rectangle) - represented by a purple box.
- ボタン (Button) - represented by a red box with a hand icon.

On the right, a smaller screenshot shows the '貸し出しアプリ' screen with a search bar and a '借りる' (Borrow) button.

③-1. ギャラリー内にラベルを追加する

The screenshot shows the design tool interface. The '貸し出しアプリ' screen is displayed in the center. A red dashed box highlights the gallery component, with a red arrow pointing to it labeled '小窓' (Small Window). Another red dashed box highlights the main screen area, labeled '大窓' (Large Window).

【ラベルを追加】

- ・ ギャラリーの小窓(ギャラリー内の上部)を選択した状態で「+挿入」→「テキストラベル」を3つ追加する

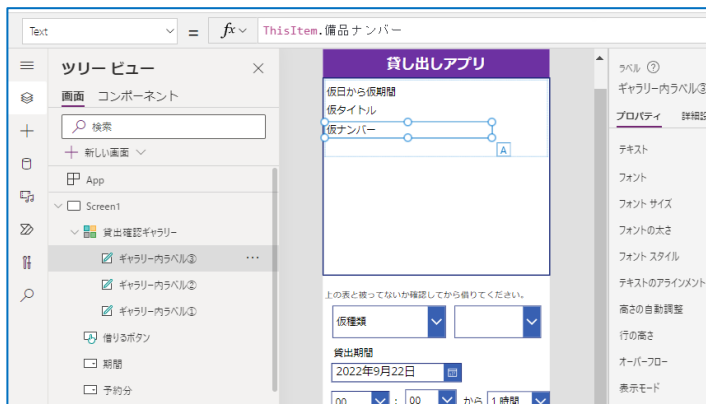
The screenshot shows the design tool interface. The 'テキストラベル' (Text Label) component is selected in the gallery. A red box highlights the 'テキストラベル' option in the gallery. A red dashed box highlights the gallery component in the design tool, with a red arrow pointing to it.

- ・ 「1画面貸し出しアプリ関数表」pdfファイルより、オブジェクト名を先に配置した順に「ギャラリー内ラベル①」「ギャラリー内ラベル②」「ギャラリー内ラベル③」として、それぞれ入力する

※ギャラリー内にあるか必ずチェック

③ ギャラリー内に配置

③-2. ギャラリー内ラベルに関数を入力する

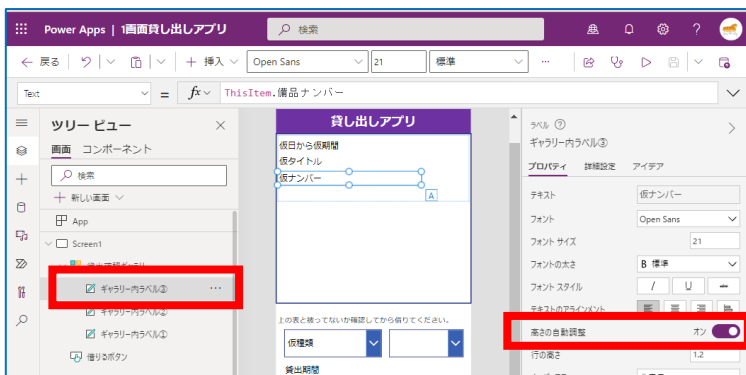


- ・ 「1画面貸し出しアプリ関数表」pdfファイルより、Textプロパティにテキストを入力する

- 【ラベルの位置を調整】
- ・ 追加した各ラベルの位置を調整する

【ギャラリー内に配置】

オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前	Text (表に見えるテキスト)
ラベル	ギャラリー内ラベル①	ThisItem.借用日 &"から"& ThisItem.貸出期間
ラベル	ギャラリー内ラベル②	ThisItem.タイトル
ラベル	ギャラリー内ラベル③	ThisItem.備品ナンバー



- * 「ギャラリー内ラベル③」は借し出し台数が多い場合でもすべて表示できるように、プロパティより「高さの自動調整」をONにする

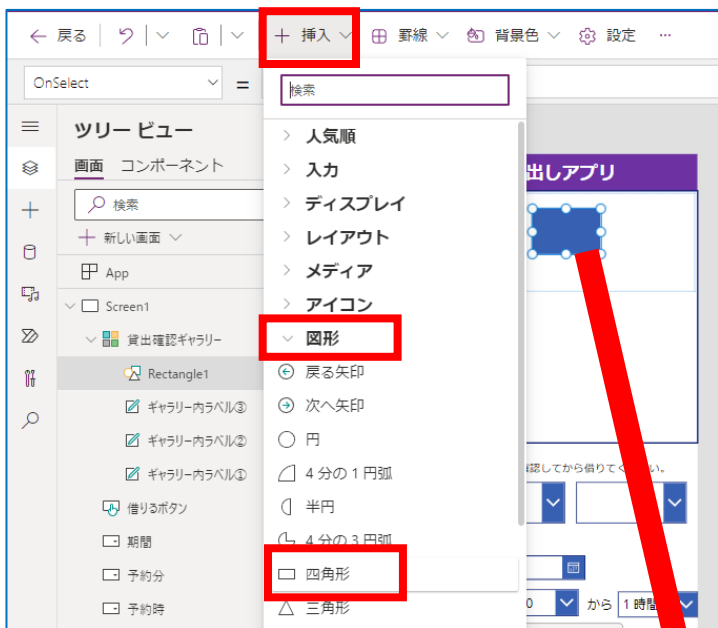
※サイズや位置調整したのちにONにする
サイズ調整すると自動でOFFになる

Point!

- ・ ギャラリーは、対象となるデータの一覧を自動で表示してくれます。
- ・ ラベルで表示させるには、「ThisItem.〇〇」の〇〇に対象列名を入力します。
- ・ ギャラリーの並べ替えやフィルターは、ギャラリーのItemsプロパティで、Sort関数やFilter関数を使うことで可能になります。

③ ギャラリー内に配置

③-3. ギャラリー内に枠を追加する

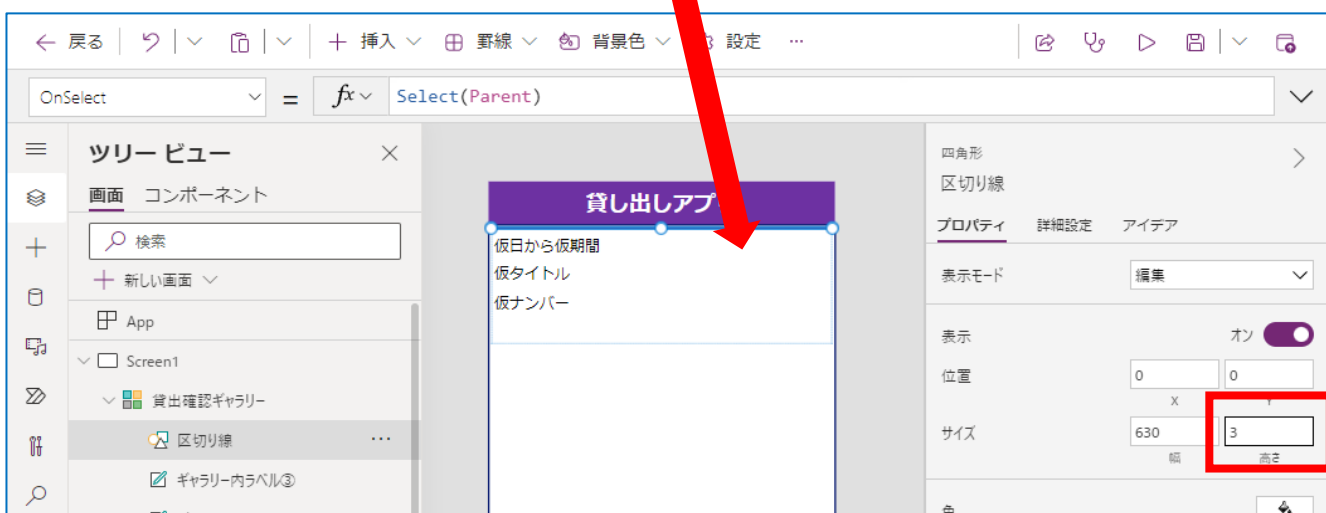


【枠を付ける】

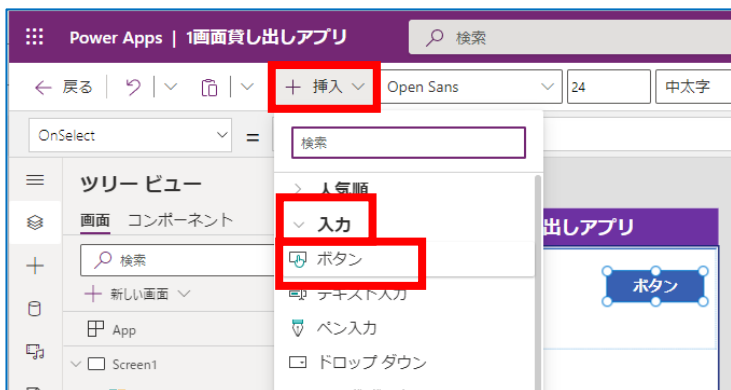
- ・ ギャラリーの小窓を選択した状態で「+挿入」→「図形」より「四角形」を追加し細長くして線にする

オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前
図形(四角形)	区切り線

- ・ 右側の「プロパティ」より線の太さや色を調整できる
- ・ 高さを「3」程に調整する



③-4. ギャラリー内に返却ボタンを追加する

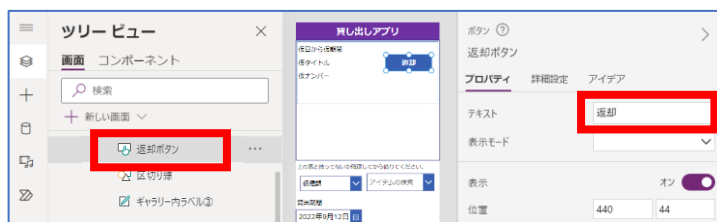


- ・ ギャラリーの小窓を選択した状態で「+挿入」→「入力」より「ボタン」を追加する

- ・ ボタン名を返却ボタンとする

③ ギャラリー内に配置

③-5. 返却ボタンに関数を入力する



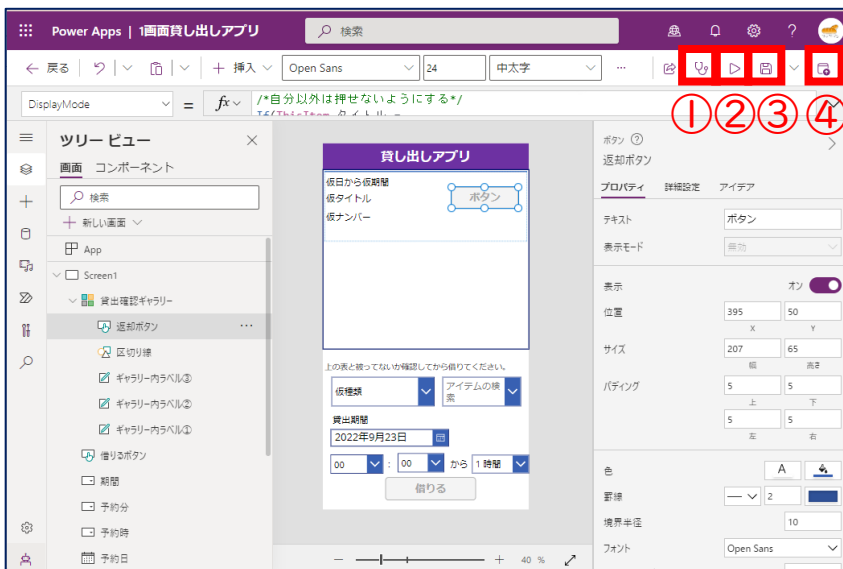
- ・ ボタンの表示を「返却」に変更する
- ・ 「返却ボタン」のプロパティ OnSelectとDisplayModeに以下の関数を入力する

【返却ボタン】

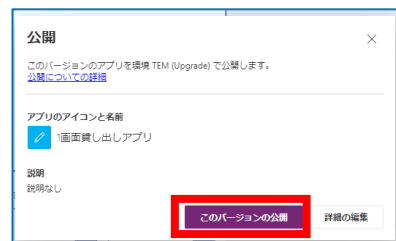
オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前	OnSelect (触れると実行)
ボタン	返却ボタン	<pre>/*list に保存済みのアイテムを更新する*/ Patch(借用者リスト, LookUp(借用者リスト,ID=ThisItem.ID), {貸し出し状態:" 返却済"})</pre>

オブジェクト (パーツ) の種類	オブジェクト (パーツ) の名前	DisplayMode (編集可、不可、表示切替)
ボタン	返却ボタン	<pre>/*自分以外は押せないようにする*/ If(ThisItem.タイトル = User().FullName,Edit,Disabled)</pre>

③-6. アプリの保存と公開

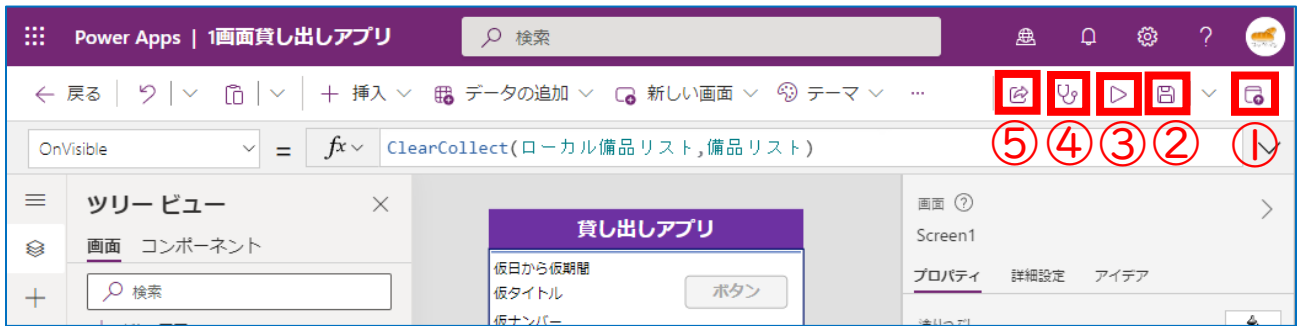


- ① エラーの確認
※赤●がないことを確認する
エラーがある場合は、P30を参考にエラーを取り除く
- ② プレビューで動作確認
- ③ 保存を選択
- ④ 公開を選択

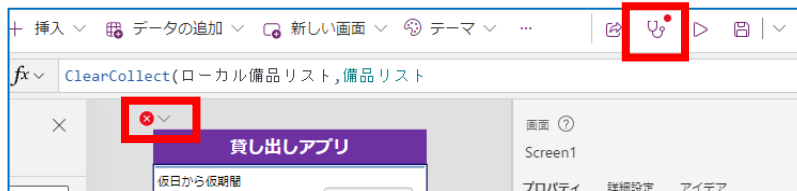


これで完成です

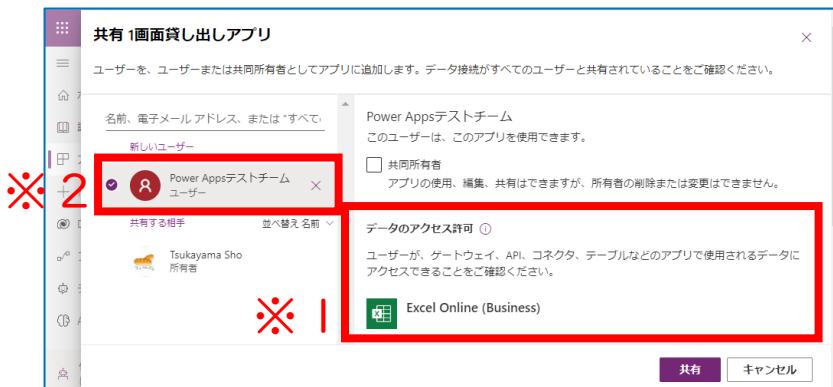
次ページからは保存や共有方法、Teamsで利用する方法、エラーのチェック等を説明します



- ① 【公開】 …スマホでアプリを利用する場合は公開が必要
- ② 【上書き保存】 …アプリの保存
※初めて保存する場合は自動で名前をつけて保存になる
- ③ 【プレビュー】 …アプリの動作確認を行うことが出来る
※Windows端末の場合、「Altキー」押しながらの
マウス操作でもプレビューを確認できる
- ④ 【チェック】 …アプリにエラーがないか知らせてくれる



- ⑤ 【共有】 …アプリを利用できるユーザーやチームを指定できる



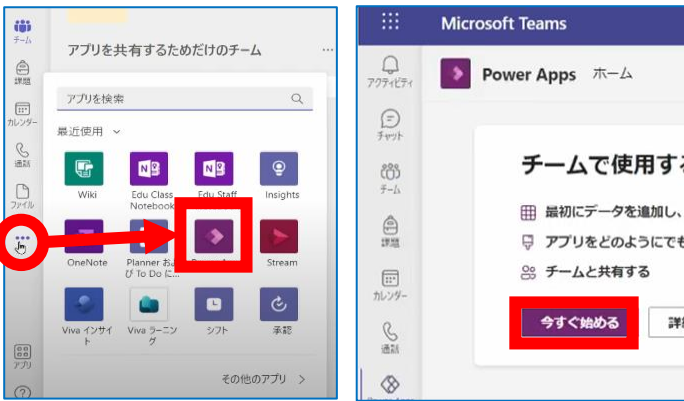
- ※ 1 データのアクセス許可
アプリを共有するときには、アプリの共有以外にも
データソース (sharepointやExcel) も共有している状態でないといけない。
データソースの共有する作業省略のため、データソースは
アプリを利用しようとしているチーム内に作るのをおすすめする。
- ※ 2 チームで保存
デフォルトでは、チームで共有できない。次ページにて共有方法の案内



① クラス以外でチームを作成する

作ったアプリをチームの人にだけ共有するには、クラス以外で作成する必要がある

※ “クラス” で作ったチームは、チーム名で共有することができない



② TeamsからPowerAppsを開く

メニューの・・・（三点リーダー）から「Power Apps」を選択する

（ない場合は上のアプリ検索から検索）

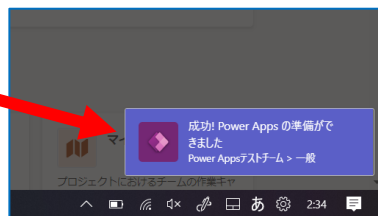
開いたら「今すぐ始める」をクリックする



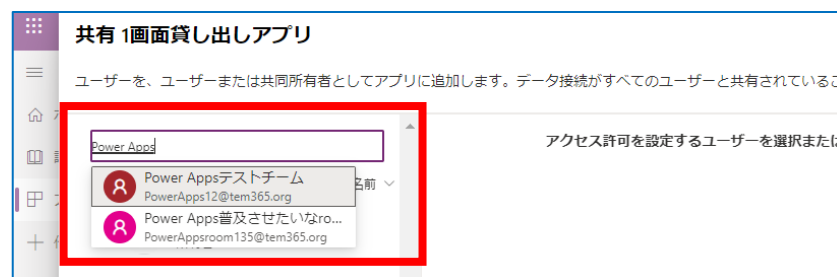
③ 共有したいチームを選択

共有したいチーム名を選択し、作成をクリックする

※ここにチーム名が出てこない場合は、少し時間をおいてから、もう一度お試してみる



④ 「成功」のアラートが出たらチーム名で共有が可能 Teamsは閉じてOK



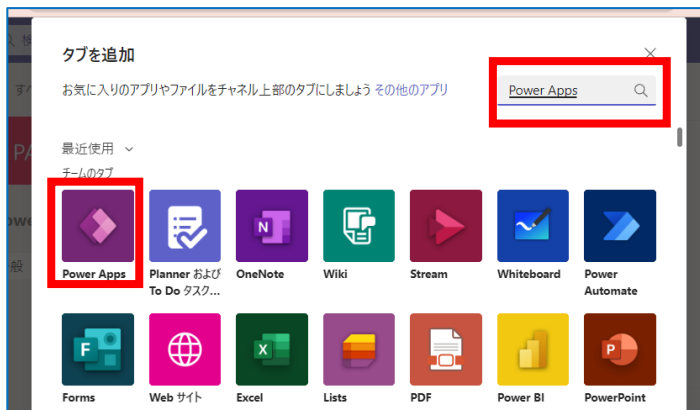
⑤ 共有で、チーム名を検索すると表示されるようになる

※チーム名で共有をすると、チームに所属しているメンバーがアプリを利用することができる

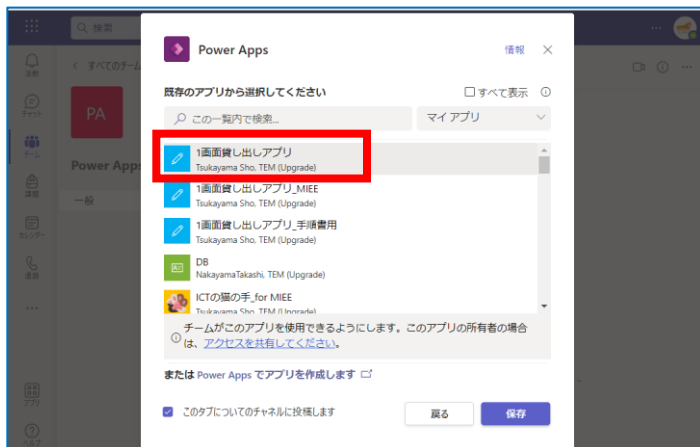
PowerAppsアプリをTeams上で利用する方法



- アプリを利用したいチームの「+」タブを選択する



- 検索欄に Power Apps と検索をかけて「Power Apps」を選択する



- アプリ一覧より、チームで利用したいアプリを選択し、「保存」をクリックする



- タブにアプリが追加されて Teams上から利用できる

*よくあるエラー

- 関数の入力ミスや、変なところで改行されている
(ドロップダウンを参照時の「.Selected.Value」や「.Selected.Result」等、関数表PDFからコピーするときによく起こるエラー)
⇒関数表通りに入力する
- 間違ったプロパティに関数を入力している
(オブジェクトを複数選択して入力するとよく起こるエラー)
⇒誤って入力したプロパティを元に戻す
(戻せない場合は一旦削除してオブジェクトを再追加する)
- ギャラリー内にラベルなどのオブジェクトが正しく配置されていない
⇒ギャラリー内にオブジェクトを配置する
ギャラリー外のオブジェクトを選択した状態で
「controlキー」+「x」で切り取り、ギャラリーの小窓を選択した状態で「controlキー」+「v」で張り付ける
- テキストをTextプロパティに直接入力する時に「" "」を忘れている
⇒テキストに「" "」を追加する
- 関数やオブジェクト名に全角半角スペースが紛れ込んでいる
(全角半角スペースはコピーの際に後ろによく紛れ込んでいる)
⇒スペースを削除する
- ラベルやギャラリーなど必ず名前を記入しないといけないところに入力がない

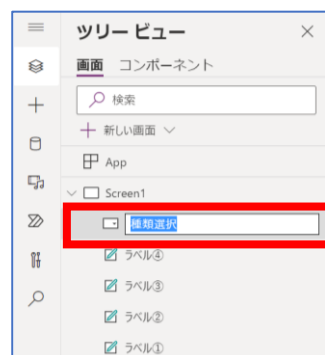
⇒今回の備品貸し出しアプリの場合、

①-3 ドロップダウン (種類選択)

①-4 コンボボックス (備品選択)

①-5～①-6 予約日、予約時、予約分、期間

は名前を変更する必要あり



*プレビューで画面を確認、テスト入力をしてみましょう。
問題なく動けば完成です!!お疲れ様でした(^^)

「借りるボタン」「返却ボタン」に記述する関数について

目次へ

【借りるボタン】 P18

Patch(借用者リスト, Defaults(借用者リスト), {

/*[列名]:保存させたいテキスト*/

Title: User().FullName,

備品の種類: 種類選択.Selected.Result,

備品ナンバー:Concat(

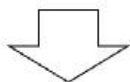
Sort(備品選択.SelectedItems,備品ナンバー),備品ナンバー & "|"),

借用日: Text(予約日.SelectedDate,"[\$-ja]yyyy/mm/dd_")& 予約時.Selected.Value & ":" & 予約分.Selected.Value,

貸出期間: 期間.Selected.Value, 貸し出し状態: "借用中"

});

Defaultsを使うと新しくアイテム(内容)を追加することが出来る



タイトル	機器ナンバー	機器の種類	借用日	貸出期間	貸し出し状態	列の追加
仮入力	仮入力	仮入力	仮入力	仮入力	仮入力	

【返却ボタン】 P24

Patch(借用者リスト, Lookup(借用者リスト, ID=ThisItem.ID), {

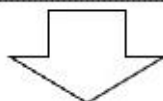
/*list に保存済みのアイテムを更新する*/

/*[列名]:保存させたいテキスト*/

貸し出し状態: "返却済"

});

Lookupを使うと対象アイテムを探し出して変更することが出来る。今回は、IDを使って変更している。IDはPower Appsが、リストに保存するとき自動で付与している番号です。



タイトル	機器ナンバー	機器の種類	借用日	貸出期間	貸し出し状態	列の追加
仮入力	仮入力	仮入力	仮入力	仮入力	仮入力	

「コピー」 & 「ペースト」 について

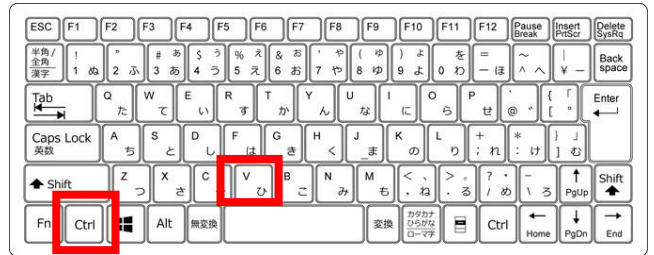
Power Appsではショートカットキーを使うことで作業効率を上げることができます。

Windowsの場合

コピー 「Ctrl + C」



コピー 「Ctrl + V」

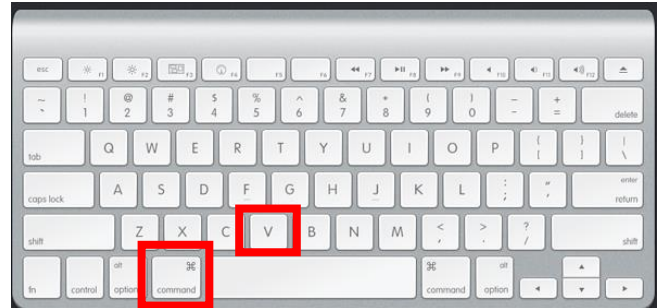


Macの場合

コピー 「command + C」



コピー 「command + V」

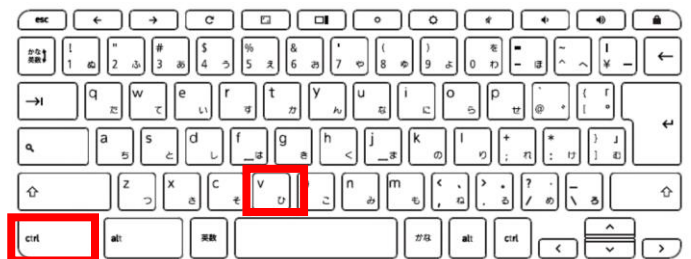


Chromebookの場合

コピー 「Ctrl + C」



コピー 「Ctrl + V」



※キーボードの配置はメーカーによって違います。
詳しくは、お手持ちの端末のキーボードを確認してください。